

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	～外国人住民に対する保健医療支援～ 「さっぽろで子育てをたのしもう！」&「医療現場で使える英語」							
団体名	公益財団法人 札幌国際プラザ							

\*\*\*\*\* 事業のポイント \*\*\*\*\*

1 母子保健セミナー

- ・市の子育て担当部局や保健所、医師、通訳ボランティアと連携した取組。
- ・外国籍市民の交流の場となるよう懇談会も実施。

2 医療通訳セミナー

- ・医療通訳の担い手を育成するため、ボランティア入門編とスキルアップ編を実施。
- ・直接患者と接する医療機関の従事者向けセミナーも実施。

助成年度	平成 23 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	300 千円
------	-------------------------	------	--------

事業の内容、成果等

1 母子保健セミナー

実施日：平成 23 年 10 月 23 日(日)13:30～15:30

参加者：4 か国 7 名(マルタ、マダガスカル、カンボジア、ザンビア)

●事業実施の背景

外国籍市民が札幌で出産・子育てをしなければならなくなった時、自国との制度の違いに戸惑うことが多くあり、医療機関や保健所での外国語のサポートも十分とは言えない。外国籍市民にも札幌市の提供する子育て支援サービスを知ってもらい安心して出産・子育てに臨めるよう実施している。

●事業内容

- ・札幌市保健所、子ども未来局職員による札幌市の母子保健や子育てサービスの説明。
- ・医師による予防接種、女性の保健、検診等についての説明。
- ・質疑応答・懇談会

●事業の効果・成果

- ・札幌市の制度の説明のほか、英語を話せる小児科医より病院での対応等についても説明し、参加者からの細かな質問にも対応することができた。
- ・保健所が、「予防接種のしおり」の英語版を作成する際の参考にするため、参加者から意見聴取を行った。利用の当事者である外国籍市民の声を直接聞く良い機会となった。
- ・予防接種の受け方や、助成制度等には毎年変更点があるため、この事業の開催には、情報提供の面で札幌市子ども未来局子育て支援課、札幌市保健所の協力が不可欠である。この事業により、子育て中の親子が集う「子育てサロン」を運営する札幌市子ども未来局との連携が進み、平成 24 年度からは札幌国際プラザが「子育てサロン」の実施場所となった。このサロンは現在、「シティサロン@国際プラザ」として、当セミナーの参加者をはじめとする外国籍市民、日本人親子の交流の場となっている。



セミナー後の懇親会の様子  
於札幌国際プラザ交流サロン

### ●工夫した点

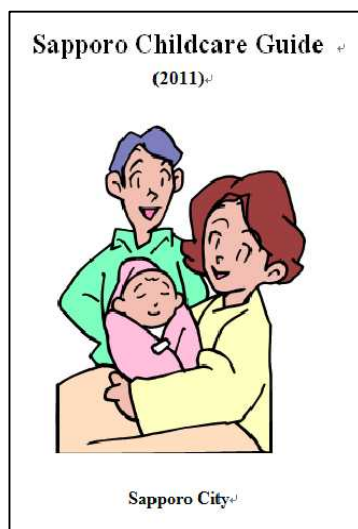
- ・小さな子どもを持つ夫婦でも集中してセミナーを受講できるように、セミナー時間中の託児サービスを設けた。
- ・セミナー後の質疑応答・懇親会を、保護者同士の交流の場としたところ医療通訳グループの活用機会や子育ての情報交換の場となった。

### ●苦労した点・課題

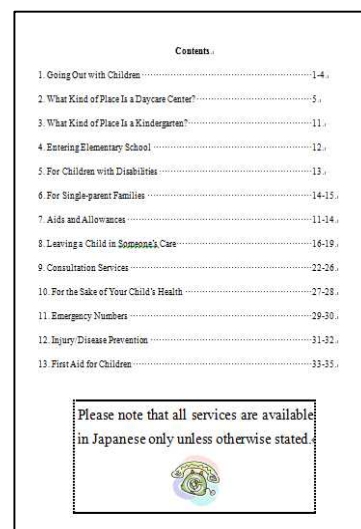
- ・外国籍市民が多く住んでいる地域の病院、留学生の多い大学などに広報活動を行っているが、参加者の増加につながりにくい。広報に協力してくれるパートナーの発掘、効果的な広報活動方法などまだ検討の必要がある。
- ・セミナーで使用する「札幌市子育てガイド」の一部を抜粋した英語版を当財団のホームページにて紹介、市の関係機関へも配布し、保健師が自宅へ訪問するときにも利用できるようにしている。行政機関での積極的な活用が課題となっている。



就学前の子どもを育てている人向けに、札幌市の取組みを中心として、子育てに関するさまざまな情報が掲載されている。



英語版(2011)



英語版・目次

## 2 医療通訳セミナー

平成 23 年 11 月 3 日(木) ①入門編(医療英語通訳に興味があり、通訳未経験の方対象)

10:00~13:00 参加数:51名

②スキルアップ編(医療通訳ボランティアの経験者、前回までのセミナー参加者対象)

14:00~17:00 参加数:27名

平成 23 年 11 月 4 日(金) ③医療従事者編(医療事務、看護師、検査技師等、直接患者と接する医療従事者対象)

13:30~16:30 参加数:25名

### ●事業実施の背景

外国人在住者・旅行者が増加する中、札幌市内における医療機関の外国語対応は十分とは言えない。医療通訳ボランティアの育成に取り組んできているが、依然として人数は不足しており、医療従事者が適切に外国語対応できるまでにはいたっていない。また長期滞在者の増加に伴い、多言語サポートのニーズはさらに高まっている。

### ●事業内容

医療通訳ボランティア未経験者が通訳の基礎を学ぶ「入門編」、医療通訳として活動している人が通訳のノウハウを学ぶ「スキルアップ編」、医療従事者が外国人患者へ対応法を学ぶ「医療従事者編」の3コースを実施。

## ●事業の効果・成果

### ①入門編

参加に特別な制限を設けていない入門編では、申込初日には定員の60名に達し、それ以降もさらに30名以上の申込希望があるなど、医療通訳・外国人医療に対する関心の高さがうかがわれた。

アンケートの結果では、他の医療通訳関係のセミナーに参加されたことがない方、医療通訳の経験のない方が7割以上を占めていたため、新たな人材発掘のセミナーとしては適当であったと思われる。

### ②スキルアップ編

入門編に比べ使用される語彙のレベルが一層難しくなり、アンケートでも「高度でした」との意見があったものの、有意義な内容だったとする回答が多かった。医療通訳として活動している人からも「もっと勉強しなければと思った」との回答があり、継続的なスキル向上のよい機会にもなった。

### ③医療従事者編

実際に医療現場で働いている人のスキル向上は、外国人患者が医療機関を受診する際の安心に、直接つながることが期待できる。医療通訳は活動場所や機会が限られるため実践に直結しにくいのに対し、医療従事者向けの医療英語セミナーでは、即業務に活用できることから、実施の直接的効果が高いものと思われる。また、医療現場の従事者ならではの、意見や悩みを共有できる場にもなった。

## ●工夫した点・課題

- ・平成22年度までは医療通訳として活動しているボランティア団体等を対象とした包括的な取り組みを行っていたが、担い手の育成と人材の底上げにねらいを明確化し、一般市民を対象とした入門編、医療通訳経験者を対象としたスキルアップ編とに分け、さらに直接患者と接する医療従事者向けの医療従事者編を設けた。
- ・すぐ実践に活かせる医療従事者に対し、通訳ボランティアは、活動する場所や機会に恵まれるとは限らない。今後、実践経験を積む機会の確保がより重要となってくる。



医療通訳セミナーの様子

於札幌国際プラザ